

ご自由にお持ちください



病院名は、キリスト教徒で医者の守護聖人とされる聖ルカにちなんで名づけられました。

St. Luke's

聖路加国際病院広報誌 セントルークス 2021.1 VOL.

44



特集

女性の患者さんの悩み、受け止めます

P6／お子さんのいらっしゃる患者さんへ P8／セントルークスレシピ

P9／排泄コントロールのために骨盤底筋を鍛えましょう！

P10／病院からのお知らせ P11／聖路加国際病院の登録医紹介

<http://hospital.luke.ac.jp/>

広報誌St.Luke'sはウェブサイトからもご覧いただけます→



女性の患者さんの 悩み、受け止めます

乳がんや婦人科がん、更年期障害、骨粗しょう症など女性に多い病気のことはよく知られていますが、病気や治療に伴う悩みにも、女性の患者さん特有のものがあります。そうした女性ならではの悩みを、聖路加ではどのようにサポートしているのか、今回は、ブレストセンターの山内英子医師、一般内科の有岡宏子医師、女性総合診療部の塩田恭子医師、医療連携室がん相談支援センターの橋本久美子看護師の4人で語りました。

女性の不調 窓口となるのは

——今回のテーマは「女性の医療」です。

山内 先生は乳腺外科、塩田先生は女性総合診療部ですが、どのような患者さんが多いですか？

山内 私の専門は乳がんですが、女性のがん患者さんで一番多いのが乳がんです。乳がんや、塩田先生のところでは診られている子宮がんや卵巣がんを含めてがんの場合は、他の医療機関で診断されてから当院に来られる方が多いですね。

有岡 私たちの一般内科は特定の病気や臓器にとらわれず総合的に診ていく診療科で、すべての方のための窓口です。どんな症状でも、どこ

の科にかかればよいかわからない場合にはご相談いただければ、と思います。たとえば「更年期の症状かどうかわからない」という方が私たちの一般内科に来られて、最終的に塩田先生の女性総合診療部にお願いすることもありますし、また、最近とても増えているのが骨粗しょう症です。圧迫骨折の予防のために骨粗しょう症を治療しましよう、という



方がとても増えていますね。

——「いつのまにか骨折」といったフレーズでCMでも骨粗しそう症の啓発活動が行われていましたね。

塩田　更年期にさしかかると骨密度がだんだん減つてくることがよく知られるようになり、更年期障害で私たちの診療科にかかる方のなかには「骨も一緒に診てください」とおっしゃる方が多く、女性総合診療部でも骨粗しそう症のお薬をお出しすることがあります。

山内　そういえば昔は腰が曲がってくたかもしません。それだけ防ができるようになったのですね。ところで、骨粗しそう症は一般内科でフォローしてくれるのですか？

有岡　治療方針が決まつたら、患者さんのお近くのかかりつけの先生に診てももらいたいときには



プレストセンター長・
乳腺外科部長・副院長

山内 英子

妊娠・出産のこと、子どものこと、外見のことなど、女性特有の悩みにも応えられる体制を整えています。

——気になる症状があるけれど、どの科かわからない場合には、まずは一般内科に、ということですね。

山内　あるいは、予約の段階でどの科かわからないときには医療連携室で振り分けを行っています。

橋本　「こういう症状ですが、何科にかかったらいいのでしょうか」など、病院の代表電話や予約センターに電話をいたずらと、私たちが対応しています。たとえば、女性の方で「おトイレでティッシュに少し血がついた」といったご相談で、それがお尻からなのか不正出血なのかわからないうときは消化器科なのか婦人科なのか判断に迷うことがあります。そうしたときにはそれぞれの科の先生に電話で話を聞きつつ、診療科の調整を行っています。

——診療科を間違うと遠回りになってしまいますね。

橋本　専門の診療科にかかる場合は原則、紹介状が必要ですが、そもそもどの科にかかればいいのかわからぬ場合、派遣や契約社員として働いている方も多いですね。病気について職場にどう伝えればいいのか、仕事と治療をどう両立させればいいのかなど、橋本さんが中心となって治療と仕事の両立支援を積極的にやつてくれています。私たちが仕事を話も聞いてあげられればいいのですが、診療時間は限られていますから、仕事のことでの悩みがありそうだなと思つたら「相談支援センターに行ってみてね」と伝えると、職場に出す診断書の書き方や上司への伝

らない場合、一つひとつクリニックをまわらないと診断にたどり着けないこともあります。そうしたときにはぜひ連携室を使つてください。

また、診療内容によっては女性の医師がいい場合もありますよね。そうした予約の調整も連携室で行えます。私たちもデリケートな診察内容のときには「男性、女性の希望はありますか？」などと尋ねるようにしています。

塩田　都内では一人暮らしの方も多いので、病気になつたときにどう会社と調整しようか、悩まる方は本当に多いですね。

仕事、お金、家族…… すべての相談窓口

山内　女性の患者さんの場合、治療以外の部分で、女性特有のサポートが必要になることもあります。医療連携室の中にはがん相談支援センターがあり、そこではさまざまな相談に対応してくれています。たとえば、女性の場合、派遣や契約社員として働いている方も多いですね。病気について職場にどう伝えればいいのか、仕事と治療をどう両立させればいいのかなど、橋本さんが中心となつて治療と仕事の両立支援を積極的にやつてくれています。私たちが仕事を話も聞いてあげられればいいのですが、診療時間は限られていますから、仕事のことでの悩みがありそうだなと思つたら「相談支援センターに行ってみてね」と伝えると、職場に

え方などいろいろとアドバイスしてくれるでとても助かっています。

塩田　都内では一人暮らしの方も多くので、病気になつたときにどう会社と調整しようか、悩まる方は本当に多いですね。

塩田　患者さんにとつての悩みは病気や治療のことだけではないんですね。お子さんがいる方は、子どもの世話はどうしよう、とか。そういうときには「チャイルド・サポート」チームがサポートしてくれています。

橋本　院内にいろいろなサポートをしてくれる専門の看護師や心理士、栄養士、チャイルドライフスペシャリストといった専門職がいるので、その人たちにワンストップでうまくつなげる役割を担つているのが相談支援センターなんです。

山内　そう、相談支援センターにお願いしたら適切な人につないでくれるので、私たちも安心してお願ひできるんです。

治療に伴う副作用にも 科や職種の垣根なく対応

橋本　家族にどう伝えたらいいの

か、いきなり手術や入院が決まってお金のことや家族の生活をどう調整すればいいのか……など、患者さんの悩みはさまざまです。

山内 そういうさまざまな悩みに對して多角的なサポートをできるチームもあります。アピアランス（外見）のケアも、以前から行っている一つ。抗がん剤で髪の毛や眉毛が抜けてしまつたときにウイッグの使い方やメイクアップの方法をお伝えしたり、最近では看護師さんが爪の研究もしてくれています。抗がん剤で爪が黒くなつてしまつることもあるのですが、女性としては辛いですね。そうした治療に伴う副作用への対応をチームで行っています。

塩田 山内先生のところは、リンパ浮腫はあまりありませんか？

山内 最近は脇の下のリンパをあまり取らなくなつたので、乳がんでは少なくなりました。でも婦人科のがんではありますよね。

塩田 婦人科のがんではリンパ節を

がん患者さんの妊娠も 妊娠中のがんも

塩田 診療科間の垣根も職種間の



一般内科部長
有岡 宏子

どんな症状でも、きちんと診断・治療し、必要であれば専門の医療につなぐのが総合診療。すべての方の窓口なのでなんでも相談してください。

塩田 女性の医療と言えばお産ですが、生活習慣病をもつてゐる方、がんの方などもいらっしゃいます。

山内 聖路加では妊娠中にがんと診断された方を日本で一番多く診ているので、他の医療機関で「子どもはあきらめなさい」と言われた方など、日本全国からご相談をいただいています。患者さんが来られないときには、オンラインでカンファレンスを行つて、その患者さんがかかる病院の先生方と一緒に治療をしていくこともあります。

塩田 診療の一ひとつは、他の病院でも可能なんですね。ただ、「がんがあつて妊娠して」となると、複数の診療科が垣根なくかかわらないと診ることはできません。

——将来的に妊娠・出産を考えているがん患者さんも多くいらっしゃいますよね。

山内 がんと診断されて抗がん剤治療をすると妊娠の可能性が低くなつてしまつるので、治療前に卵子や

受精卵を取つておくことができるんですね。今まで自費でしたが、最近では助成金を出す自治体も出てきています。東京都や国でもそういう話が出でて、今後ますます希望される方は増えると思います。若くてがんの進みが早かつたりするとより早く治療を始めなければいけません。そうすると、月に一回しかない排卵日はとても貴重で、できるだけ早く採卵をしてもらいたいのですね。聖路加では電話一本でその日に診てもらえるチームワークがあるので、「妊娠の可能性を残しておきたい」という患者さんの思いにも十分に応えられる体制が整つていると思います。

塩田 院内のがん患者さんだけではなく、近隣の病院の患者さんにも対応しています。

山内 最近では「AYAサバイバー・シップセンター」というAYA世代(15~39歳)の患者さんをサポート

女性総合診療部医長 **塩田 恭子**

更年期は病気も増えてくる時期。重要な病気が隠れていることもあるので、『更年期だから仕方ない』と思わず、不調があればご相談ください。



橋本 そうした相談の窓口も相談支援センターが担つていて、社会資源

——女性の場合、仕事だけではなく家庭でさまざまな役割を担っていることが多いです。

一人ひとりの困りごとにみんなでサポートします

トするセンターも立ち上げました。子どもの頃に受けた抗がん剤治療の影響で生理が止まってしまった方などもいらっしゃるんですね。その後、子どもをもちたいと思ったときにどうすればいいのかとか、生理が早く止まった影響で骨粗しょう症になりやすいとか、さまざまなフォローができる体制をつくっているところです。



医療連携室
がん相談支援センター看護師

橋本 久美子

ファイナンシャルプランナーや美容師、ヨガインストラクターなど、院外の専門家とも連携し、テーマ別にグループで学べる場も作っています。

医師が自分たちの仕事に集中できるのは、みんなのサポートのおかげで、私たちにできるのは2割くらいなんです。患者さんやご家族がいる社会背景をちゃんと考えなければ治療は進まないので、チーム医療がなければ絶対に成り立ちません。

橋本 先生たちが患者さんの悩みをよく拾つてくださるので、それに、先生たちに電話をすればいつでもすぐにお話を聞いてもらえるので、私たちも安心して患者さんの相談に応じることができます。

橋本 先日は救急外来で「ペットが

いるから入院できない」という患者さんがいらして、猫を預かってくれるところをみんなで探しました。

橋本 先日は救急外来で「ペットが

いるから入院できない」という患者さんがいらして、猫を預かってくれるところをみんなで探しました。

夫?」と聞きづらかったんです。今は

何でも受け止めてくれる場所があるので、患者さんの悩みをどんどん

拾つてあげられるようになります

た。

や地域のサポートが必要な場合にソーシャルワーカーの人たちにサポートに入つてもらっています。

——なんでも相談支援センターで受け止めてくれる、ということです

山内 私たちも受けてくれるところがなければニーズを拾えないので、

お互い様ですね。以前は、がんと診断された患者さんが仕事をのこと

悩んでいるように思つても、「大丈

山内 その方が本当に困っているこ

とをみんなで解決しようという想い

が、治療を進める立場としてはあり

がたいですね。一人ひとりの患者さ

さんのニーズに合わせてみんなでサ

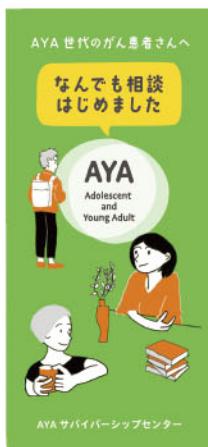
ポートできる体制をつくつていこう

と思っていますので、ぜひ、悩みを近

くにいるスタッフに相談していただ

ければと思います。

AYA世代のがん患者さんへ AYAサバイバーシップセンターに ご相談ください



AYAサバイバーシップセンターは、AYA (Adolescent and Young Adult, AYA) 世代(15-39歳)患者さんが抱える身体的、精神的、社会的な悩み

や相談を、病気の診断時から治療後にかけてサポートすることを目的としたセンターです。AYA世代は進学、卒業、就職、結婚、出産など多様なライフイベントが起こるのが特徴です。そのため病気に罹患した年齢に応じた療養上の悩みを抱かれると思います。当院では医師、看護師、薬剤師、臨床心理士などの多職種で構成されたAYAサポートユニットがあり、AYA世代患者さんのさまざまな悩みに対応し、みなさまの療養生活を支援しています。



AYAサバイバーシップセンター

TEL : 03-5550-7098 平日9時~17時

E-mail : aya@luke.ac.jp

<http://hospital.luke.ac.jp/guide/aya/index.html>

お子さんのいらつしやる患者さんへ

聖路加には、小児科医、チャイルド・ライフ・スペシャリスト、臨床心理士という3職種で構成する「チャイルド・サポート」というチームがあります。お子さん自身が病気になったときはもちろん、家族が病気になったときにも、不安や恐怖などを感じているもの。抱えている不安が膨らみ、心身の状態や生活に支障が出ないよう、チャイルド・サポートではお子さんのいる患者さん、そしてお子さん自身をサポートしています。



臨床心理士
久保嶋 真弓

お子さんや患者さんに私たちができるることを常に考えています。抱えきれないことは、院内みんなでつながりオーダーメイドのサポートを目指します。



チャイルド・ライフ・スペシャリスト
三浦 絵莉子

私たちからお子さんに病気のことを伝えることも。「病院はみんなを助ける場所なんだよ」とわかつてもらえるように心がけています。



小児科医長
小澤 美和

人であり女性であり妻であり母。病気になればまずは人としてショックを受けます。「母として」の前にまずはご自身を整えることが大切です。

お父さんの死をきっかけに娘さんが不登校に

病院に来られる子どもたちをサポートする「こども医療支援室」のメンバーでチャイルド・サポートというチームを立ち上げたのは、家族の闘病中や闘病後に具合が悪くなる子どもたちがいるという気づきがきっかけでした。

「小児科医として、『学校に行けない』『ご飯が食べられなくなつた』などと困っているお子さんによくよく話を聞いてみると、親御さんを亡くしており、その闘病中の不安やストレスが発端と考えられることが多々あったのです」と話すのは、小児科の小澤美和医師です。

なかでも小澤医師にとって印象に残っているのが、二十年ほど前、不登校の相談で来られた母娘でした。父親の病死をきっかけに地方から東京へ引っ越してきた

ところ、学級委員長を任されるほどしつかり者だった娘さんが急に不登校になり、小児科の外来に通院されるようになつたのです。最初のうちはお母さんも娘さんもお父さんが亡くなつたときのことは、ほとんど話してくれませんでした。ただ、外来で診るようになつて一年以上経つたある日、「いつもと様子が違つて心配」とお母さんより電話をもらい、急きょ外に来てもらったところ、娘さんがポツポツとお父さんのことを語つてくれたのです。

「彼女は、お父さんを突然亡くした時の気持ちを、ずっと心の奥にしまつたまま、誰とも話せずにいたことを語つてくれました。このまま大切な人がどんどんくなつてしまふんじゃないかとすごく怖かったそうです。でも、家ではお父さんの話はタブーになつていて、誰にも話せなかつたのです」(小澤医師)



こうした子どもたちとの関わ
りから、「患者さんの子どもたち
も支えよう」という文化を院内で
少しづつ築き、チャイルド・サポー
トというチームが生まれました。

親の心が整えば 子どもも安心する

チャイルド・サポートにかかわ
るのは小児科医、チャイルド・ライ
フ・スペシャリスト(CLS)、臨床
心理士という三職種。CLSと
は、子どもの育ちに関する専門知
識をもち、子どもや家族に心理
社会的支援を行う専門職です。

急に病気が見つかったり、病状
が変わったりすると、「子どもに
どう伝えればいいのか」「これまで
と同じように子どもの面倒をみ
てあげられない」など、お子さん
とのかかわりで不安や悩みを感
じることがあるでしょう。そうし



た患者さんに対して、入院や外
来、救命救急などのスタッフから
依頼を受けて、まずは、心理士
(あるいはCLS)が、患者さんで
ある親御さんに話を伺います。

チャイルド・サポートという名

前ですが、直接お子さんに会うの
は10人に一人ほど。病気でない子
どもにとつて医療者に会うことは
ハードルが高いほか、親御さんの心
が整うことことがお子さんの安心に
もつながるからです。「子どもは
環境で育ち、親の精神状態は環
境の最たるもの。親御さんの心を
整えるお手伝いをすることが大
事で、それだけで十分なことも多
いのです」と、小澤医師。

初回面談からかかわることが
多いという久保嶋真弓臨床心理
士は、「まずは背景を知ることが
大事。患者さん(親御さん)ご自
身が病気のことをどう受け止め
ているのか、どんな思いでお子様
を育ててきたのか、お子様に何を
望まれているのかなどをよく聴
き、どんなサポートができるかを
患者さんと一緒に考えるように
しています」と話します。

チャイルド・サポートがかかわ
る際、患者さんから聞く悩みで多
いのが、子どもへの「伝え方」。親御
さんは伝えたつもりでも、お子さ
んには伝わっていないこともあります。

病気と診断されたときから いつでも頼ってください

そして、心理士やCLSが話を
聞いていくなかで、「お子さんにも
医療的なかかわりが必要」と判断
したら、小澤医師につなぎます。

やつてあげたいことができなくな
ると、つい『ごめんね』と言つてしま
いがち。それを『ありがとう』に
変えるだけで、お子さんの気持ち
は和らぎます。そんな風になるべ
く具体的に提案をしていきます」
と、三浦絵莉子CLS。

三浦絵莉子CLS。
そして、心理士やCLSが話を
聞いていくなかで、「お子さんにも
医療的なかかわりが必要」と判断
したら、小澤医師につなぎます。

「覚えていた」と聞いたら、
『すごく覚えている』と。最初は
病気の話は怖くて聞きたくな
かつたけれど、あのときにお母さ
んがちゃんと話してくれました。
良かった』と、言つてくれました。
その言葉は今でも励みになつてい
ます」と話します。

患者さんだけではなく、患者
さんのお子さんにもサポートが必
要——。今ではその文化が院内に
広がり、たとえば緩和ケア病棟の
患者さんのとお子さんが面
会にくるときには必ずチャイル
ド・サポートチームがかかわるよ
うになりました。命にかかる病
気だけではなく、「どんな病気で
も、診断を受けて落ち込んで、
会話が難しい」とのことでした。
このときにはCLSが「どう伝え
るか」のアドバイスを行い、人形な
どを使って、お母さんから伝えて
もらいました。そして病気が進行

し、緩和ケアのために転院するこ
とに至った際も、お母さんから娘
さんに話をすることができます
た。その方はしばらくして亡くな
られましたが、娘さんが高校生にな
ったときに一度会いに来てくれ
ました。

そのときのことを三浦CLS
は、「覚えていた」と聞いたら、
『すごく覚えている』と。最初は
病気の話は怖くて聞きたくな
かつたけれど、あのときにお母さ
んがちゃんと話してくれました。
良かった』と、言つてくれました。
その言葉は今でも励みになつてい
ます」と話します。

患者さんだけではなく、患者
さんのお子さんにもサポートが必
要——。今ではその文化が院内に
広がり、たとえば緩和ケア病棟の
患者さんのとお子さんが面
会にくるときには必ずチャイル
ド・サポートチームがかかわるよ
うになりました。命にかかる病
気だけではなく、「どんな病気で
も、診断を受けて落ち込んで、
会話が難しい」とのことでした。
このときにはCLSが「どう伝え
るか」のアドバイスを行い、人形な
どを使って、お母さんから伝えて
もらいました。そして病気が進行

St. Luke's Recipe

セントルークスレシピ 11月18日の昼食レシピ

レシピの ポイント!

ピカタの鶏肉は、胸肉でも作りやすいです。卵でボリュームも増し、柔らかく、たんぱく質もしっかりとれるので、高齢者でも食べやすいです。

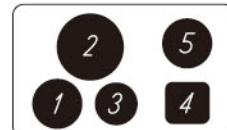


栄養科 管理栄養士
岩間 達子



〈1人分〉

エネルギー 696kcal たんぱく質 29.7g
脂質 15.3g 炭水化物 107g 塩分 2.1g



1 ごはん 金芽米(1人分) 180g 【エネルギー 302kcal たんぱく質 4.5g 脂質 0.5g 炭水化物 66.8g 塩分 0g 〈1人分〉】

2 チキンピカタ 【エネルギー 167kcal たんぱく質 17.4g 脂質 7.6g 炭水化物 5.5g 塩分 1.1g 〈1人分〉】

材料 (2人分)		
若鶏もも皮なし	160g	
塩	0.8g	
胡椒	少々	
薄力粉	8g	
卵	30g	
植物油	4g	
いんげん	30g	
塩	0.2g	
バター	2g	
中濃ソース	10g	

作り方

- ①鶏肉は縦半分に切り厚い部分に包丁を入れて厚みを均等にする。
- ②鶏肉に塩・胡椒をふり小麦粉をまぶした後で、溶き卵にくぐらせる。
- ③フライパンに植物油を熱し②を流しいれ、焦げないように中火→弱火で片面3分ずつ焼く。
- ④いんげんは下茹でし4cm位に切りそろえ、③の後のフライパンにバターを入れ軽く炒め塩をふる。
- ⑤鶏肉を食べやすい大きさに切り、いんげんを添える。食べる直前にソースをかける。

3 肉じゃが 【エネルギー 144kcal たんぱく質 4.0g 脂質 6.1g 炭水化物 18.3g 塩分 0.7g 〈1人分〉】

材料 (2人分)		
じゃが芋(メーケイン)	120g	
人参	32g	
玉ねぎ	40g	
牛バラ肉スライス	30g	
生姜汁	0.6g	
植物油	2g	
だし汁	80g	
砂糖	4g	
A みりん	6g	
醤油	8g	
絹さや	6g	

作り方

- ①じゃが芋は皮をむいて一口大に切り水にさらす。
- ②人参は乱切り、玉ねぎはくし形に切る。牛肉は食べやすい大きさに切り生姜汁をまぶしておく。
- ③鍋に植物油を熱し、牛肉を炒め、じゃが芋・人参・玉ねぎを加えてさらに炒める。
- ④だし汁を加えて一度沸騰させてから落し蓋をし弱火→中火で煮込む。アグがでたら取り除く。調味料Aを加え、柔らかくなり、煮汁が少なくなったら火をとめる。
- ⑤絹さやは、あらかじめ下茹でし、斜め切りにし、最後に飾る。

4 カリフラワーと枝豆の酢味噌和え 【エネルギー 46kcal たんぱく質 3.2g 脂質 1.0g 炭水化物 6.8g 塩分 0.3g 〈1人分〉】

材料 (2人分)		
カリフラワー	100g	
冷凍枝豆(正味)	20g	
甘味噌	10g	
みりん	3g	
酢	5g	
B 食塩	0.2g	
練りからし	2g	

作り方

- ①カリフラワーは食べやすい大きさに切り茹でておく。
- ②枝豆は柔らかく茹で、薄皮をむき、すり鉢やブレンダーでつぶす。包丁で刻む程度でもよい。
- ③調味料Bは小鍋で軽く火を通す、硬いなら水分を加える。冷ましたら練りからし・枝豆を加え和える。
- ④カリフラワーと③を混ぜ合わせる。

5 みかん 1個(100g) 【エネルギー 37kcal たんぱく質 0.6g 脂質 0.1g 炭水化物 9.6g 塩分 0g 〈1人分〉】

エクササイズのポイント

- ① 息を吐きながら骨盤底筋に力を入れる
※骨盤の底を引き上げる、尿やおならを我慢するイメージ!
- ② 力まずに骨盤や身体が動かないように意識する
※人に見られてもエクササイズしていると分からないように!
- ③ 「3~5秒力をいれる、緩める」を10回ずつ、1日2~3回



気軽にエクササイズ

排泄コントロールのために骨盤底筋を鍛えましょう！

骨盤底筋は骨盤の底にある筋肉で、膀胱や子宮、直腸などの臓器を支え、尿などの排泄をコントロールする役割があります。骨盤底筋の機能が低下すると内臓を支える力が弱くなり、尿漏れなどが起こりやすくなります。また、姿勢や腰痛などとも関係するため、骨盤底筋を維持するためのエクササイズが大切です。

立位での基礎練習



テーブルなどに手をつき、息を吐きながらポイント①のイメージで力をいれます。身体全体が動かないように注意。

仰向けでの基礎練習

膝を立て、手をお腹におき、息を吐きながらポイント①のイメージで力をいれます。お腹や腰を動かさないように注意。



左右の足と膝はつけず、少し広げた状態で

応用練習：膝開き

横向きに寝て、片膝を広げた状態で息を吐きながらポイント①のイメージで力をいれます。骨盤を動かさないように注意。

骨盤が動かないように



手で体を支える

腰が反らないように



手は横に開く

ポイント・注意点 /

- 息を止めず、無理のない範囲でゆっくりと実施してください。
- 痛みやしびれ、腹部症状、手術歴のある方は必ず主治医に相談してから実施してください。

「自宅で出来る！おうちリハビリ！」シリーズ

現在、リハビリテーションセンターのホームページや動画配信サイトにて、様々な運動を紹介しています。
是非ご活用ください!!



ホームページ



YouTube

動画配信サイト



リハビリテーション科
理学療法士 真下 翔太



2020年12月1日付

聖路加国際病院は厚生労働省により 特定機能病院に承認されました



特定機能病院は、厚生労働省が定める「高度な医療・研究・研修・医療安全管理体制」の基準をクリアした病院の名称で、現在、当院を含め全国で87病院が特定機能病院として承認されています。そのうち79病院が大学病院本院であり、民間の総合病院としては聖路加国際病院が初めての承認となります。

当院では、福井次矢現院長が2005年に就任以来、『エビデンスに基づいた安全で質の高い医療を、全職員が思いやりある応対で提供する』ことを念頭に、医療の質や安全性に関する国際機関による認証を獲得するとともに、先進的な医療や臨床研究・基礎研究の実施体制の整備、医療専門職の教育、あらゆる側面での国際化等を積極的に推し進めてまいりました。特定機能病院の承認は、そのような長年にわたる努力の結実であり、職員一同喜びを覚えるとともに、国内外の医療界で果たす役割・責務の大きさに改めて身が引き締まる思いであります。

今後とも、患者の皆さんから信頼される安全で質の高い医療を提供するとともに、更なる高度な医療と研究、教育の実践に努め、わが国の医療の発展に貢献してまいります。



医療法人社団 墨水会

浜町センタービルクリニック

診療科目

一般内科・消化器科・循環器科・呼吸器科・脳神経外科・整形外科・糖尿病科・人間ドック(半日・2日コース)・会社健康診断

理事長 窪田 德幸 先生

浜町センタービルクリニックは1993年明治座のビル(浜町センタービル)が建ち、1993年に開院、2004年から現在の墨水会となりました。

主となる診療科は消化器科、循環器科、糖尿病科で呼吸器内科、脳神経科、整形外科もあり、上部、下部内視鏡、CT検査も備えております。診療とともに会社健診、区民検診を行っております。

患者さんは会社勤めの方とともに近隣地域の方も多く診させていただいています。

新型コロナウイルス感染症の影響は大きいです。感染予防に配慮しております。

患者さんの診察にあたっては、当たり前のことですが、問診、診察をしっかりとおこない、診察に来てよかったですと思われるよう、優しい医療をこころがけております。

聖路加国際病院とは患者さんのご紹介とともに、かかりつけの患者さんの救急診療など、とてもお世話になっております。またいろいろな勉強会なども参加させていただいております。



診療時間	月	火	水	木	金	土	日・祝
9:00 - 12:00	○	○	○	○	○	○	/
13:30 - 17:00	○	○	○	○	○	/	/

住所 〒103-0007 東京都中央区日本橋浜町2-31-1 浜町センタービル7F(明治座)
TEL 03-3664-6858 URL <https://hamacho-cc.or.jp/>

アクセス 都営新宿線 浜町駅A2出口すぐ



医療法人社団 秀慈会

リバーシティすずき整形外科

診療科目 整形外科、リハビリテーション科、リウマチ科



院長 鈴木 秀彦 先生

2015年5月、長年在籍した母校東京慈恵会医科大学との連携を考慮して、父の診療所がある千葉県ではなくここ東京佃の地に開業しました。お年寄りや主婦層、学生さんはもちろん、市場や飲食関係の方、最近はリモートワークの影響もありサラリーマンやそのお子さんの来院が多い傾向にあります。「巣ごもり」や運動不足により症状が悪化している方も多く、新型コロナウイルス感染拡大当初は受診控えにより減ったものの、夏以降は患者さんがかえって増えているので、診療やリハビリテーションを安全に提供できるよう、院内では感染予防にとくに細心の注意を払っています。

母校の「病気を診ずして病人を診よ」という建学の精神を胸に、医師だけが治すのではなく、37名のスタッフ全員のチームプレーで病を治癒に導くという意識を根付かせています。また、コロナ禍だからこそ笑顔で前向きに、フィジカルディスタンシングを強いられる時だからこそ寄り添う気持ちが大切という信条を院内で共有しながら、一同診療に勤しんでいます。今後は「病診連携」はもちろん、このコロナ禍でその重要性を痛感した「診診連携」にも重点を置きながら地域一般医療を守ることで、コロナの最前線で体を張ってくださっている聖路加さんの後方支援の役目を果たせればと考えています。



診療時間	月	火	水	木	金	土	日・祝
9:00 - 12:30	○	○	○	/	○	○	/
14:30 - 18:00	○	○	○	/	○	/	/

住所 〒104-0051 東京都中央区佃1-11-8 リバーシティ21 ピアウェストスクエア2F

TEL 03-3534-5678 URL <https://suzuki-seikei.tokyo/index.html>

アクセス 東京メトロ有楽町線、都営大江戸線 月島駅A6出口徒歩6分

ご寄付のご報告(2020年7月1日～10月31日)

金額	名前
5,000,000	Yahoo!基金様
4,000,000	宗教法人 水天宮様
各 3,000,000	井上 柚紀様、三機工業株式会社様、吉井 良子様
2,000,000	戸上 千恵子様
各 1,000,000	糸魚川 順様、株式会社博進紙器製作所様、堀内 成子様、吉井 克俊様
880,000	有限会社日比谷松本樓様
500,000	衛藤 公治様
400,000	木下 康仁様
300,000	角野 みさき様
250,000	近藤 衡平様
各 200,000	黒田 実史様、齋藤 淳一様、齋藤 正則様
150,000	石山 久美子様
110,000	高野 光子様
各 100,000	相川 直樹様、太田 喜久子様、鹿股 直樹様、國師 万倫子様
	近藤 優子様、斎藤 和子様、酒井 和子様、白石 ナオ子様、白石 典義様
	聖路加同窓会様、高橋 清二様、西畠 典子様
	一般社団法人日本私立看護系大学協会様、畠山 展郎様
	堀内 ふき様、マーシャル 奈々子様、桃井 雅子様
65,000	横山 節子様
各 50,000	伊賀上 瞳見様、小原 侃様、一般社団法人東京キワニスクラブ様
	東郷 薫様、丹羽 喜一様、源 外吉様、山田 鴻様
各 30,000	射場 敏明様、倉石 昇様、廣渡 和子様、堀越 進様、馬庭 恭子様
各 20,000	小堀 次夫様、平岡 輝史様、星野 明子様
14,587	川口基督教會(大阪)様
各 10,000	今井 保美様、小粥 紀子様、柳原 昌子様、竹内 英彦様
	玉井 潤様、中島 秀樹様、萩原 春香・智也様
	上記他、柚木正様、匿名50名の皆様
合計 903,465,828円(50音順)	

(本表には、日野原ホール椅子基金、聖路加サポーターズ基金、公衆衛生大学院 教育振興基金、
リサイクル募金聖路加きしゃばんは含まれておりません。)

聖路加サポーターズ募金 新規ご加入いただいた方々

大野 千穂様、 小山 あけみ様、 杉浦 和月様
杉浦 康紀様、 杉浦 聰子様、 杉浦 佑月様、 長谷川 和音様
上記7名の方々にご加入いただきました。ありがとうございました。

リサイクル募金 聖路加きしゃばんにご支援いただいた方々

押尾 茂様、 小林 いずみ様、 奈須野 典子様、 益田 恵淑様
上記の他、匿名希望10名の方々から、ご支援いただきました。ありがとうございました。
聖路加国際病院を運営する学校法人聖路加国際大学が、引き続き広く社会に貢献するとともに
医療・看護の発展に寄与できますよう、多くの皆様の温かいご支援をお願い申し上げます。

ご寄付に関するお問い合わせは：学校法人聖路加国際大学 募金室(03-5550-2368)

ご寄付をいただき、ありがとうございました。

皆様からいただいたご寄付は、ご芳志に沿って大切に使用させていただきます。

聖路加国際大学看護教育100周年記念事業「看護教育振興基金」

2020年、聖路加国際大学は看護教育100周年を迎えるにあたり、次の100年における看護の革新をリードする人材を育成し、看護教育のますますの充実を図り、本学の社会的使命を果たしていくために、看護教育振興基金を創設し、ご支援を募ることいたしました。ご寄付に関心のある方はこちらをご覧ください。



「聖路加の看護100のエピソード」の頒布について

「聖路加の看護100のエピソード」は、聖路加国際大学看護教育100周年記念事業の一環として刊行した書籍です。同窓生を中心に聖路加の看護に関わった医師・看護師、教職員から募集した、100のエピソードを掲載しています。ご希望の方に限定500部を2,000円でお分けしています。

お申し込み・お問合せについては募金室に直接ご連絡ください。

募金室(小寺、稻田 平日9:00～17:00)

TEL : 03-5550-2368(直)

Email : bokinsitu@luke.ac.jp



聖路加国際病院の理念

*This hospital is a living organism
designed to demonstrate in convincing terms
the transmuting power of Christian love
when applied in relief of human suffering.*

Rudolf B. Teusler (1933)

キリスト教の愛の心が

人の悩みを救うために働けば 苦しみは消えて

その人は生まれ変わったようになる

この偉大な愛の力を だれもがすぐわかるように

計画されてできた生きた有機体がこの病院である

ルドルフ・B・トイスター (1933)

編集
後記

職場の同僚や同居している家族など、改めて感謝の気持ちを伝えるのはなかなか難しいですね。当院ではサービス向上委員会が全職員向けに、感謝の気持ちを伝えたい人にサンキューカードを送ろうという活動をしています。お互いを褒めあうことでの仕事のモチベーションが上がり、同時に患者さんの満足度も上がる効果もあります。このようなコロナ禍だからこそ、是非あなたもありがとうございますの気持ちを形にして伝えてみませんか？

学校法人聖路加国際大学広報室 〒104-0044 東京都中央区明石町10-1 TEL:03-6226-6366 FAX:03-6226-6376 E-mail:pr@luke.ac.jp



聖路加国際病院

〒104-8560 東京都中央区明石町9-1
TEL:03-3541-5151(代) http://hospital.luke.ac.jp/

エコプレス
バインダー

針金・糊・加熱が不要な
製本方法で怪我の危険
に配慮しています。

